

Monthly Report

2020年11月号

特集 水没事故を考える

近年は、1時間に50mmを超えるような「ゲリラ豪雨」の発生により、日頃は普通に通行している道路でも、水没事故が発生する可能性が高まっています。

今回は、車の水没事故を、車の機能や避難器具、心の働きなどから理解し、その危険回避について考えてみましょう。

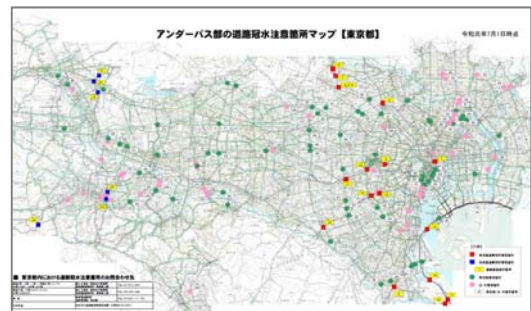


2016年9月水没による重大事故が発生した地点

1. いつもの道路に危険が

水没危険箇所は国土交通省、自治体等が公表しているだけでも意外に多くあり、東京都のアンダーパス部だけで135か所など、身近な所に危険が潜んでいることが分かります。

また、車は想像以上に少ない水位でも機能不全に陥ります。例えば、**30cm程度**の冠水でエンジン停止となるなど、具体的な影響を理解しておくことも大切です。※2



※1.国土交通省Webサイト「関東地域における道路冠水注意箇所マップ」
https://www.ktr.mlit.go.jp/road/bousai/road_bousai00000001.html
(2020.10.5.閲覧)

■ 冠水による車の機能不全



※2.国土交通省Webサイト「水深が床面を超えたら、もう危険！ - 自動車が冠水した道路を走行する場合に発生する不具合について」
https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha08_hh_003565.html (2020.10.5.閲覧)

2. いざという時のために(避難器具の備え)

万一の備えとして、脱出用のハンマーが市販されています。国土交通省も備え付けを呼びかけており※、いざという時のため、車内の手の届くところに装備しておくことが大切です。

脱出の際は、側面か後部のウインドーガラスをハンマーで割って脱出します。フロントガラスはひびが入るだけで、ハンマーでは割れません。また、シートベルトがロックされた場合に備え、シートベルトカッターのついたものもあります。(通常1,000円程度から購入可能です)



※国土交通省Webサイト「いざという時のために、緊急脱出用ハンマーを備え付けましょう！」
https://www.mlit.go.jp/jidosha/carinf/rcf/carsafety_sub/carsafety023.html (2020.10.5閲覧)

3. 危険感受性を高める(心の備え)

人には「正常性バイアス」という特殊な心理特性があるとされています。これは、心の安定を保つために、小さな異変や異常は正常の範囲内の出来事として処理しようとする心のメカニズムです。※1

経験のない異常事態に直面すると、この「正常性バイアス」の働きで、「まだ大丈夫」とか「自分は大丈夫」というように、現実の危険を否定して自分は安全な状態にあると信じ込もうとする傾向が生じ、迅速な避難行動の妨げになることが指摘されています。※2

この例として有名な、2003年2月に韓国の大邱市で発生した「地下鉄放火事件」では、地下鉄車両内に煙が充満してきても、座ったまま事態を静観している多数の乗客がいたことが報告されています。突然発生した異常な状況に、多くの人が直ぐ避難行動に移ることができず、300名以上の死傷者を出す痛ましい事件となりました。

水没事故に限らず、突発的な事故を避けるには、このような心のメカニズムを理解し日頃から危険感受性を高めることが大切です。

**もしもの水没事故などを考えて
日頃から行動のシミュレーションなど備えをしておきましょう！**

※1. 広瀬弘忠, 杉森伸吉, 正常性バイアスの実験的検討, 東京女子大学心理学紀要, 2005年, 創刊号, pp81-86

※2. 土田昭司編著, 安全とリスクの心理学, 培風館, 2018, P.156



損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

<公式ウェブサイト> <https://www.sompo-japan.co.jp>

SOMPOリスクマネジメント株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1

<公式ウェブサイト> <https://www.sompo-rc.co.jp>

時間に余裕をもって、

**「お・も・い・や・り」のある運転を！
みなさまの無事故を願っております。**

エヌエスサービス(株)一同